

執筆者紹介

森田 健嗣	(もりた けんじ)	東京大学大学院総合文化研究科学術研究員
大野 育子	(おおの いくこ)	宇都宮大学国際学研究科博士後期課程
赤松美和子	(あかまつ みわこ)	大妻女子大学比較文化学部
陳 周渝	(ちん しゅうゆ)	名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科博士後期課程
石橋 健一	(いしばし けんいち)	名古屋産業大学環境情報ビジネス学部
王 鴻濬	(おう こうしゅん)	国立東華大学公共行政研究所
曾 耀鋒	(そう ようほう)	国立台中科技大学日本市場暨商務策略研究所
趙 天儀	(ちょう てんぎ)	詩人／元静宜大学台湾文学系教授
松永 正義	(まつなが まさよし)	一橋大学大学院言語社会研究科
赤羽 淳	(あかばね じゅん)	横浜市立大学国際総合科学部国際マネジメント研究科
堀内 義隆	(ほりうち よしたか)	三重大学人文学部法律経済学科
中嶋 航一	(なかじま こういち)	帝塚山大学経済学部
竹茂 敦	(たけしげ あつし)	法政大学沖縄文化研究所
何 義麟	(か ぎりん)	国立台北教育大学台湾文化研究所
原 英子	(はら えいこ)	岩手県立大学盛岡短期大学部
西村 一之	(にしむら かずゆき)	日本女子大学人間社会学部現代社会学科
梅森 直之	(うめもり なおゆき)	早稲田大学政治経済学術院
藤澤 太郎	(ふじさわ たろう)	桜美林大学人文学系
中島 利郎	(なかじま としお)	岐阜聖徳学園大学外国語学部

編集委員

小笠原欣幸、上水流久彦、河原功(副委員長)、佐藤幸人(委員長)、澤井律之、張士陽、
門間理良

編集後記

まず、本号の作成にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。執筆者のみなさん、査読者のみなさん、本当にありがとうございました。また、今号も一般財団法人台湾協会から経費の一部を補助していただきました。学会の財政が赤字を続ける中、大きな支えとなっています。心よりお礼申し上げます。

一方、刊行が遅れましたことお詫び申し上げます。会員総会でも報告しましたように、今号ではわたしの本業のピークと今号を作成する作業のピークが重なってしまいました。それぞれのサイクルとも動かす余地が小さいため、抜本的な解決は難しいのですが、次号では何か工夫をするようにしたいと思います。

さて、今号の特徴は何といても多数の書評を収録したことです。一面では予め投稿が少ないことが予想されていたため、それを補おうと準備していました。他面、いいチャンスだとも思いました。本誌はこれまでごく僅かの書評しか掲載していませんでした。重要な成果である研究書に対して批評をおこなっていくことは、台湾研究の発展のために重要であることは論を待ちません。その役割を本誌はこれまで十分には果たしてこれなかったわけです。そこまでは手が回らなかったというのが正直なところでしょう。しかし、今号では投稿が少ない分、誌面にも編集委員会の作業にも多少の余裕が生まれました。しかも、近年、若手・中堅研究者の単著が続々と刊行され、取り上げるべき本が積み上がっていました。書評に取り組む絶好のタイミングだったのかもしれない。

とはいえ、当然のことながら、初めての試みには困難がともないます。実際に書評の執筆を依頼するに当たって、投稿論文を念頭に作られた執筆要領では抜け落ちている点が多々後から見つかりましたし、書評の書式についても新しく考えなくてはなりません。執筆をお願いした著者の方たちへの連絡が行き届かないこともままありました。やや不揃いなどところがあるのは、このような理由からです。ご迷惑をおかけした著者の方たちには改めてお詫び申し上げますとともに、それにもかかわらず、柔軟に対応してくださったことに感謝申し上げます。今回の経験を踏まえ、書評を継続的に掲載する体制を整えたいと考えています。これを機に『日本台湾学会報』において書評の掲載が定着し、台湾研究のさらなる発展を促していくことを期待しています。

次号から編集委員の一部が交代になります。今号で河原功さん、小笠原欣幸さん、門間理良さんが編集委員会を離れます。これまでお疲れ様でした。新しい委員会になりましても、会員のみなさんには『日本台湾学会報』を引き続きご支持、ご支援いただきたいと思ひます。何よりも積極的な投稿を待ち望んでいます。

(編集委員長 佐藤幸人)

日本台湾学会報 第15号 2013年6月30日発行

編集・発行：日本台湾学会『日本台湾学会報』編集委員会
〒113-0033 東京都東京都文京区本郷7-3-1
東京大学東洋文化研究所 松田康博研究室気付
E-mail：nihontaiwangakkai@gmail.com
ウェブサイト：http://www.jats.gr.jp/